



銚子ジオパーク

銚子ジオパーク推進協議会事務局 ☎(24)8911

# ジオツアーにでかけよう

## 海と川に囲まれ、さまざまな産業を生んだ恵みの地

### なにに見えるかな？

### 荒波で削られた岩めぐり

太平洋の荒波が寄せては返す銚子の海岸。硬い岩石も波や風雨で徐々に削られていきます。その結果、海岸にはさまざまな形の岩ができるのです。昔から人々はそんな岩を色々なものに例えて呼んできました。今回はそんな岩を巡っていきましょう！



とんび岩

黒生漁港にある約1億3000万年前に小石が集まって固まってできた岩。



トンビのくちばしのような形が特徴

長崎海岸近くにある2つの島。利根川河口や黒生にある黒っぽい岩と同じく、約2000万年前に噴火した火山の溶岩が固まってできました。岩の名前は、源義経を指す九郎判官から転じたものといわれます。



人が仰向けになってるように見えるね



畳岩

長崎鼻の西に浮かぶ大きな板のように見える岩。砂が固まってできた厚い砂岩と泥が固まってできた泥岩が交互に重なっています。約1億3000万年前にできました。



犬岩

まさに耳をピンと立てた犬のよう!

県内で最も古いジュラ紀の地層です。砂の固まった砂岩、泥の固まった泥岩からできています。白っぽい砂岩と黒っぽい泥岩とがごちゃごちゃに混在した様子を見ることができます。

銚子の海岸にはまだまだいろいろな形の岩があります。岩石自体は、はるか昔につくられたものですが、削られていろいろな形になったのは、岩石の歴史からみるとごく最近のことです。今、後海海岸にいろいろな形の岩ができていくことも、そんなときは、イメージを膨らませてオリジナルの名前を付けるのが面白いかもしれませんね。

## 公共施設のあり方を考える 上

今号から始まる「公共施設のあり方を考える」。現在から将来にわたって市が抱える、公共施設の課題について、シリーズでお知らせしていきます。 問合せ 企画課 ☎(24)8912

### ●なぜ今、公共施設が問題なの？

市では、高度経済成長期の昭和40年代をピークに、学校や市営住宅など多くの公共施設を整備し、さまざまな市民ニーズに対応してきました。

しかし、現在、7割近くの施設が建築後30年以上を経過していることに加え、近年の財政状況の急激な悪化から、施設の維持管理に必要な経費を十分に手当てすることができなかったため、施設の老朽化が一気に進んでいます。

今後、維持修繕費用はもちろんのこと、これらの施設が一斉に更新時期を迎えるため、多額の費用負担が予測されます。また、急激な人口減少や少子高齢化による公共施設への市民ニーズの変化も考えられます。

まさに今、施設の維持更新問題は非常に重要な局面を迎えているのです。

### ●公共施設のこれから

これからは、長期的な視点で、施設の更新・統廃合・長寿命

化などを計画的に行い、財政負担を軽減・平準化し、公共施設の最適な配置を検討する必要があります。

市では、市民の皆さんの意見を取り入れながらこれからの公共施設のあり方を示す「公共施設等総合管理計画」の策定作業を進めていきます。

公共施設の築年数の状況

